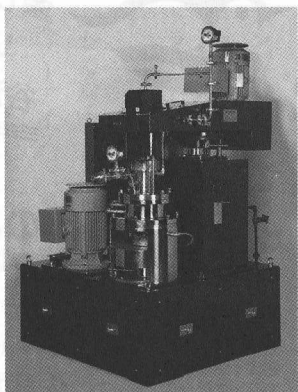




アシザワかるた



主力製品ビーズミル

そして、2000年、四代目に就任した直太郎さんは気づきました。本業の赤字そして社員の無気力。バブル崩壊で経済が停滞している時期

次の100年へ

ほんわかしたきらこです。本指に入る会社の社長さん。ガラケイの携帯の愛用者と聞いてなんだか

した。のビーズミル製造の礎を築いたので。三代目直仁さんは入社した芦沢鉄工(株)の下請企業脱却を志し、メーカーへの転換に力を注ぎ、現在のビーズミル製造の礎を築いたので。

「社員は会社の財産」と位置づけているこの会社のユニークなところは、部署を取り払ったチームを作った活動をしているところ。その成果の一つが、会社の特徴を44枚の札にこめた『アシザワかるた』です。忘年会はチーム戦のかるた競技会、新年会は個人戦で盛り上がりです。

まもなく創業116年
初代は芦澤仁吾さん。東京・月島に蘆澤鐵工所を創業。小型ボイラーや蒸気機関車を製造していましたが関東大震災で工場を焼失。二代目直臈(なおよし)さんは夜間学校に通いながら再建を誓い、セメントのプラント機械製造に着目して成功。江東区南砂に移転。

とはいえ、このままでは会社はもたないと、思い切って「全員解雇」と「新創業」という決断をしました。創業100周年記念祝賀会には新社名も披露。ほとんどの社員が新会社に再入社し「微粒子技術で新しい可能性の共創」をスローガンに業績と社風を劇的に改善しました。

わたしのまちの

100年企業

「継続は力なり」といわれます。わたしたちのまちで100年続いている企業。その創業者は——。長く続く秘訣は——。そして未来は——。たずねてみました。

Ashizawa アシザワ・ファインテック(株)

創業1903年(明治36)年。会社設立2002年 粉砕機、混合機製造
会長・芦澤直仁 社長・芦澤直太郎
本社・習志野市茜浜1-4-2

微粒子技術で 新しい可能性の共創

アシザワ・ファインテックという会社は、なにを造っているのだろう。微粒子つてなにに使うの?

そんな「？」を抱えて芦澤直太郎社長に会いに行きました。

1メートルの10億分の1

1mの1000分の1が1mm、その1000分の1が1ミクロン、その1000分の1が1ナノ。つまり1mの10億分の1であるナノサイズの微粒子を造る粉砕機(ビーズミル)を開発・製造している会社なのです。

インフルエンザのウイルスより小さいものをどうやって造るの……。

「すりつぶすのですか」と私。

「そうです。そのとおり」と社長。

そんな、目にも見えない、吹けば飛ばよような微粒子、なにに使うのでしょうか。

自動車の塗料、化粧品、インクジェット、タッチパネル、電子部品などなど。用途に応じて素材も粒子の大きさも違うのですから、それに対応する機械を開発するのです。

私が気に入っているボールペン、替え芯をまとめて買っておかないと安心できないこの品のインクもアシザワさんのノウハウの賜物と感激。

きつと生活のあらゆる分野で活躍しているのでしょう。